

令和7年度

第3回総合教育会議
会議録

とき 令和7年12月23日

品 川 区

令和7年度第3回品川区総合教育会議

日時 令和7年12月23日（火） 開会：午後4時00分

場所 品川区役所 本庁舎5階 第五委員会室

出席者	区長	森澤 恭子
	副区長	新井 康
	教育委員会教育長	伊崎 みゆき
	同 教育長職務代理者	吉村 潔
	同 委員	稲垣 百合恵
	同 委員	濱松 誠
	同 委員	吉原 幸子

出席理事者	区長室長	柏原 敦
	総務課長	藤村 信介
	教育委員会事務局教育次長	米田 博
	同 庶務課長	船木 秀樹
	同 学校施設担当課長	荒木 孝太
	同 学務課長	石井 健太郎
	同 指導課長	酒川 敬史
	同 教育総合支援センター長	丸谷 大輔
	同 教育施策推進担当課長	唐澤 好彦
	同 特別支援教育担当課長	新井 正康
	同 品川図書館長	三ツ橋 悦子

傍聴人数 なし

- 次第
1. 開 会
 2. あいさつ 品川区長、教育長
 3. オンライン講演

【テーマ】広島での教育改革から見たこれからの義務教育に必要なこと

【講 師】前広島県教育委員会教育長
学校法人金蘭会学園 副理事長
平川 理恵 氏

4. そ の 他
5. 閉 会

区長室長	<p>定刻となりましたので、令和7年度第3回品川区総合教育会議を始めさせていただきます。本日進行を務めさせていただきます、区長室長の柏原でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>まず初めに傍聴人の方ですが、本日傍聴の方はいらっしゃいません。</p> <p>また、本日の会議におきましては、記録用にカメラ撮影をさせていただきますのでご了承をお願いしたいと思います。</p> <p>それでは開会にあたりまして、森澤区長より挨拶申し上げます。</p>
区長	<p>座ったままで失礼いたします。よろしくお願いいたします。</p> <p>本日はお忙しい中、今年度第3回目の総合教育会議にご参集いただきましてありがとうございます。</p> <p>本日の総合教育会議では、民間企業、そして起業され、民間校長もご経験されて、広島県の教育長として様々な教育改革を実施されてこられました平川理恵様より、イェナプラン教育、自由進度学習、不登校支援の3つの大きなテーマでご講演いただきます。</p> <p>子どもたちを取り巻く環境が日々多様化していく現代において、子どもたちが自ら考え、選び、行動していくことが大事であり、そのような主体性を育み伸ばしていくことは教育の役割の1つだと考えています。</p> <p>品川区でも子どもたちの主体性を伸ばす様々な取り組みを行っておりますが、他の自治体に先駆け実施されている広島県の取り組みをお伺いし、新しい知見や気付きを得ることで、品川区の教育の質のさらなる向上に繋げていきたいと思っております。</p> <p>また、不登校支援につきましても、不登校の背景や問題は年々複雑化しております。この総合教育会議で改めて支援体制を考える機会としたいと思います。</p> <p>本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
区長室長	<p>続きまして、教育委員会を代表いたしまして、伊崎教育長よりご挨拶をお願いいたします。</p>
教育長	<p>着座のままで失礼いたします。教育長の伊崎でございます。</p> <p>本日はお忙しい中、ご参集いただきありがとうございます。</p> <p>本日は前広島県教育長の平川様をお迎えして、ご講演を聞かせていただきます。区長からお話ございましたように、広島県における先進的な教育改革を主導されて、子どもたち一人ひとりの個性や可能性を引き出すという教育の実現に向けて多くの実績を積み重ねてこられました。私も昨年度、常石とともに学園に視察に行かせていただき、授業の様子や教員の皆様の取り組みを伺ってきたところでございます。本日のお話を通じて、視察で得た学びを深めるとともに、これからの教育のあり方について新たな視点を得られるものと大いに楽しみにしております。</p> <p>区といたしましても、急速に変化する社会の中で子どもたちが多くの人々と協力しながら、主体的に自らの生き方を選択して、個性を輝かせることができるよう、個々の能力を最大限に伸ばすことができる教育環境の実現を目指していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
区長室長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは次第の項番3、オンライン講演に入っていきたいと思います。</p> <p>本日は、前広島県教育委員会教育長で現在は学校法人金蘭会学園の副理事長であります、平川理恵様に「広島での教育改革から見えたこれからの義務教育に必要なこと」をテーマにオンラインによりご講演をいただきます。</p> <p>講演の前に平川様についてご紹介をさせていただきます。</p> <p>2010年に全国で女性初の公立中学校の民間人校長として横浜市立の中学校に着任され、不登校支援などに取り組まれました。</p> <p>2018年に広島県教育委員会教育長に就任され、2期6年務められました。</p> <p>教育長時代には、公立初のイェナプラン教育校や自由進度学習の導入、中学校などでの不登校や特別な支援が必要な生徒を支援するスペシャルサポートルームの設置、公立高校入試での自己表現の導入など、様々な教育改革に取り組まれました。</p> <p>現在は学校法人金蘭会学園で女子教育の再定義を行うべく、改革を進めておられます。簡単でございますが、ご紹介は以上となります。</p> <p>それでは、講演の方に移りたいと思います。</p> <p>質疑などにつきましては講演終了後にまとめて行いたいと思います。また、資料につきましては、前方のモニターをご覧くださいませよう、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは平川様、よろしくお願いいたします。</p>

講師	<p>皆さんこんにちは、平川理恵と申します。</p> <p>今、大阪の金蘭会学園という学校を改革しております、それ以外にも色々な仕事をやっているんですけど、東京と大阪、今年数えるだけで100回を超える新幹線に乗っております、行ったり来たりしております。今日は大阪からオンラインで失礼させていただきます。本日はこのような大変貴重な機会を与えていただき、ありがとうございます。</p> <p>事前に資料を拝見いたしまして、品川区様に関しましては、地域と連携した教育支援をすでにもう実施されていて、特にマイスクールの実践等もおありになりますので、もう私がお説明させていただかなくてもというところはあるかと思えますけれども、僭越ながら広島県の実例について資料をご覧になっていただきながら、初めに40分講演をさせていただきたいと思っております。それでは、資料を共有させていただきます。</p> <p>まず簡単に自己紹介からさせていただきます。</p> <p>20代がリクルート、30代が留学斡旋会社を自由が丘でやっておりまして、40代が民間人校長、そして49の時に広島県の教育長になりまして、去年の3月まで教育長を務めておりました。今は女子教育について改革しております。</p> <p>(以下、画面で資料を共有しながら説明)</p> <p>教育のことをお話する前に、この資料をご覧になっていただきたいんですけども、ちょっと見づらくて申し訳ありません。何かと言いますと、アメリカのUNEMPLOYMENT RATE、アメリカは9月から大学が始まりまして5月に卒業いたしますけれども、今年5月に卒業した学生たちの就職できなかったランキングが74学部で出ております。この表の一番上がANTHROPOLOGYということで文化人類学です。文化人類学の人には申し訳ないんですけど、就職できないというのは何となくわかると思うんですね。9.4%ですから10人に約1人は就職できなかったということですが、この2つ下を見てください。COMPUTER ENGINEERINGということで7.5%、それからその下がCOMMERCIAL ART&GRAPHIC DESIGNということでいわゆるCMですよ。これらの学部に関することはChatGPTが作っちゃっているのもう要らない仕事になりつつあるということです。それから、その3つ下がCOMPUTER SCIENCEということで、去年まではなかったんですけども、今年からCOMPUTER ENGINEERINGとCOMPUTER SCIENCEに関してはもう就職できないランキングに入ってきてしまっております。</p> <p>これは本当に世界が目まぐるしく変わっているということで、本当にそうだなと思っております、私が中学校の校長をやっている時に「パイソンをやっていたら、これからウハウハやで」というふうに言っていたのに、もうこういうことも言えないなというふうに思っております。いわゆるCOMPUTER SCIENCEやCOMPUTER ENGINEERINGで簡単なプログラミングなどであれば、ChatGPTがやってしまうということなんですよ。</p> <p>だから逆に言うと、ここの就職できなかったランキングの下の方でいうと、一番下が何だと皆さん思われますか。実はZOOLOGYなんですよね、動物学。えー動物学？と思われるかもしれませんが、やっぱり人間が人間たるゆえんのものと言いますか、ペットを飼ってらっしゃる方も多いと思うんですけど、動物にすごく癒やしを求めたりするということでしょう。ZOOLOGY。それから看護、NURSINGとかですね。あるいはEDUCATIONなど。人間らしいものを職業とできるような学部はやっぱりなくなっていくんですよ。ここがやっぱり私も教育に携わるものとして、これから将来の子どもたちが食うに困られると困りますので、そういう点でどんな仕事に就くのか、またどんな勉強をしていったらいいのかということは一つ考えなければいけないことかなと思っております。</p> <p>そして人口減少です。東京はそんなに感じないかもしれませんが、地方の広島などは人口減少が激しくございまして、学校の統廃合もたくさんありましたし、例えば35人学級をやる時も全然困りませんでした。と申しますのは、もう86%の学校が35人以下だったからです。そういう意味で、少し事情が地方と東京では違うかなと思っておりますけれども、日本全体の問題かと思えます。</p> <p>そんな中、21世紀に身につけるべきスキルで、これはもう釈迦に説法というか、教育に携わっていらっしゃる方はもうご存知でいらっしゃるのかと思えますけど、念のためお話しさせていただきますと、欧米のほうでは3つの潮流がございます。</p> <p>1つは、大手テクノロジー企業や大学で作る「P21」の21世紀型スキル。それから、世界経済フォーラムが2015年に作成しました16の必須スキル。この次が、OECDの示す「能力リスト」Learning Framework 2030というものです。細かく見ていきます。</p> <p>Framework for 21st century learningという、大手テクノロジー企業はGAFAMのことですが、GAFAMや大学が作るもので言いますと、例えば生活とキャリアのスキル、学習能力とイ</p>
----	--

ノベーションのスキル、それから情報・マスメディア・テクノロジーのスキル、主要科目と21世紀のテーマということで、ちょっとぼんやりとしているかなというふうに思われると思います。

次に、もうちょっと解像度高く出てきたのが、世界経済フォーラムの16のスキルです。スキルというと文学・数学・科学・ICT、このあたりを何となくスキルとして皆さんもなるほどと思うと思うんですけど、クリティカルシンキング、クリエイティビティ、コミュニケーション、コラボレーション、頭文字がCなので、これらが4Cと言われるものです。その右側の、キュリオシティ、イニシエティブ、持続性・グリット、適応性、リーダーシップ、社会性・文化性、これらが本当にスキルなのかなというふうに思ったり、あるいは生涯学び続けるスキルということで、少し違和感があります。

その次が、OECDの示す能力リストで様々書いてございますけれども、エージェンシー、主体性と当事者意識。最終的にはウェルビーイングというところがLearning Framework 2030なんですけど、これを見ていただいて、これは欧米の人がつくりましたから、欧米の人が、日本人が大切にしてきた何とか人間力みたいなことを寄せてきているなというふうには私は勝手に思っております。つまり、今からAIなどが出てきた時に、やっぱり人間力だとか、人間として大切なものというのがものすごく大事になってくる、あるいは日本で生まれ育つというようなことや、日本で育っていくという時の軸ですね、これがやっぱりすごく重要になってきていると私は思っております。

さてもう1つ、皆さんにお知らせしたいのは、皆さんは何歳まで生きるんでしょうか。ということなんです。

2007年生まれの先進国の子どもの寿命中位数でございますけれども、軒並み100歳を超えます。今の中学校1年生のことです。日本人は107歳です。寿命中位数で107歳ということは、半分以上はそれ以上生きるということなんです。ある子は110歳、ある子は120歳、ある子は130歳、もしかしたら150歳が出てくるかもしれませぬし、100歳の美魔女というのも出てくると思います。本当に時代が変わります。

これは日本だけではなくて、カナダやフランス、ドイツ、イタリア、イギリス、アメリカということで軒並み100歳を超えるんですよね。こう考えていますと、今オーストラリアで初産の最高年齢が68歳なんです。35歳の長女が、お母さんもう1人頑張ろうかしらって言った60歳のお母さんが私も頑張ろうかしら、ということも起きる。だから、5代ぐらいいわたくしにこの世にいるってことなんです。そういうことも起こり得るということ私たちは念頭に教育をやっつけていかなきゃいけない。今考えると、SF映画じゃないし、なんて思うんですけど、そんな時代がもしかしたら来るかもしれないということを見越さないといけないということです。

さて今日お話をさせていただきますのは、私が広島県でやってきたことです。年間予算が1580億円、教職員の数は広島市を入れて2万6000人でした。広島県教育委員会の職員の数は600人です。私は今もそうですけれども、教育の根源とは何かということを考えて、そして長期で捉えて、多様な環境で、と思っております。

つまり、「根源・長期・多様」「根源・長期・多様」「根源・長期・多様」ということを唱えながら、今も仕事をしております。

では、教育の根源とは一体何でしょうか。根本的なところというのは一体何でしょうか。これは正解も不正解もないんですけども、私は教育の根本ということは、こういうことだと思っております。

「人間とは何か?」「生きるって何?」ということを主軸とした教育だと思っております。今の学校は、みんなと一緒にいうのを教え過ぎていないかと思っております。ではアンチテーゼで考えます。逆で考えます。

根源ではない教育というのは一体何か。ウケばかりを狙うや上っ面のプレゼン、枝葉末節を指します。長期ではない教育というのは、今学期や今年だけ何かという形になります。それから多様でない教育が何かというのは、テストに強い子やテクニクという形になります。こんな教育を続けていたらどうなるかという、いつも元気で明るい、人間的に深みがない子どもになってしまうと思います。そして、この学年・学級は良いけれども、人生が何たるかをわかっていない。それからテストには強いが人間として強みがない。こんな子どもを量産して何になるんでしょうか?というふうに思いながら、広島県でもやってみましたし、横浜でもやってみましたし、今もそのようにやっております。

さて今日お話させていただくのは教育改革のツボでございます。

特に、イエナプラン、それから自由進度学習、不登校支援については動画等も見ていただきたいと思っております。カリキュラムとカルチャーとシステム、これをどう変えるかということです。

初めに、カリキュラムでございますけれども、毎日の授業をどうやって変えるかということになります。もうすでに、品川区様におかれましてはもやってらっしゃることなので、何を今さらというふうに思われるかもしれませんが、結局ここが変わらなければ、子どもは学校に行きたくない、というふうになると思っております。つまり、月曜から金曜の1時間目から6時間目が変わらなければいけないというふうに思っております。

そのためにどうやって変えるかということなんですけれども、オルタナティブなものを入れました。例えば広島叡智学園というところにはIB（インターナショナルバカロレア）。それから、教育長様もご覧になっていただいたと伺いましたけれども、常石ともに学園のお話、それから常石ともに学園のようなアンチテーゼ的なものをやりますと、間が埋まってくるというのが自由進度学習です。それから不登校対策、このあたりをお話しさせていただきたいと思っております。

まず広島叡智学園ですけれども、2019年に大崎上島というところに作りました。この学校はIBの学校でして、IBの教育というのは、これは5年前の資料でございますが、3人の中学校1年生の生徒に農業のことについて、データサイエンスも駆使しながら、レポートとパワポの資料を作りなさいと言ったら、ちゃちゃっとこういうふうで作っちゃうんですよ。つまり、ロジカルに論理的に話をするというようなことをきちっとできる子どもに育ちまして、今年度につきましては、広島叡智学園のホームページを見ていただきますとわかりますけれども、19ヶ国、たしか医学部も何名か出ております。1学年40人でここから20人の外国人が入ってきて60人で英語と日本語をあわせてやりますけれども、このような実績が出ました。中にはロンドン大学やペンシルベニア大学のようなところに受かった子もいますし、海外の大学もかなりフルスカラーシップ、奨学金をもらって行く、というところまでになりました。

この実績を言いたいわけではなくて、今日はこのイエナプランです。イエナプランはどこでもできて、誰でもできて、お金もあんまりかからないので、どこの学校も実施したらいいのにな、というふうに思っていますけれども、やり方がガラッと変わるので、先生方の寄り添いと、それから皆でやっていかなきゃいけないということが必要になります。このページはご覧になっていただいているのでおわかりかと思っておりますけれども、クラスを学齢で分けずに、1から3年生、4から6年生というふうに異年齢学級で行います。この異年齢学級の中にブロックアワーとワールドオリエンテーションというものを入れるんですけれども、これをやった結果、1年で令和4年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が100%、それから「先生はあなたのよいところを認めてくれると思いますか」というところも100%となりました。このような学校は広島全体で見ても他にはありませんでした。

実際にどんな授業かというのは、現地に行ってみていただいているとのことですが、これは5年前のブロックアワー、読み書きそろばんの授業になります。

(動画を視聴しながら説明)

算数と国語ですね。学習計画をそれぞれ子どもたちが自分で立てます。これは低学年の子どもでも立てることができます。当時は、AIドリルなどがありましたけど、もっと今は状況が良くなっていて、これこそまさに品川学園さんや鮫浜小学校さんでも同じような形でやっていたらと思います。

この学校は黒板を取ってしまったんですよ、一斉授業できないように。そこがやっぱり大きかったかなと思っています。取ることが重要なのではなくて、リビングルームと呼んでおりましたけれども、皆がこの教室で異年齢のこういった上の子が下の子を教えたり、友達同士で学び合いをしたりしていくというような形になります。ですので、昔の松下村塾みたいな寺子屋みたいなものなんですよ。外国から来たもので珍しいものではなくて、松下村塾や寺子屋に近い形のものというふうに思っていてよいかと思います。そういう形でこのイエナプランを取り入れました。

こちらが時間割です。昼休みの前のところ、午前中のところ、体育や音楽や道徳や毛筆などの必要なものは固定で入れまして、あと残りは全部、子どもたちが自分で自分の時間割を決めます。そういうことが可能なんですよ。小学校については合科的指導というような形で、特例校にしなくても認められていますので大丈夫なんですけれども、午後からずっと

プロジェクト型の学習ということでやっております。これもやっぱり先生たちが慣れていくということが重要なと思います。1回慣れるとこっちの方が楽だというお話もごさいます。

そして、このイェナプランをやると、「今までこうだったのに、これでもいいの？だったら自分のところも何かやりたいな」というふうに先生方が思われて、広島については現在、200～300校の小学校がすでに導入されているのが自由進度学習でございます。これは品川区でもやっていらっしゃる事前のヒアリングでお伺いいたしました。

広島の場合の自由進度学習がどうなっているかということについて、廿日市市立宮園小学校の実例をご覧になっていただきます。

(動画を視聴しながら説明)

こちらはおなじみの学齢ごとのクラス編成です。異年齢学級ではありませんが、算数から始めるのが一番やりやすいと思います。ドリルでやる子もいれば、パソコンを使う子もいます。様々な学ぶ内容、学ぶペース、学び方。もう一度申し上げます。学ぶ内容、学ぶペース、学び方。自分の学び方が、体験的なものがあるという子はこのように外に体験コーナーというのがあります。これでドリルではなくて体験的に学ぶということを選び取っていくわけです。やっぱり人は選び取ると、必ずやります。守ります。それは大人も子どもも一緒です。ずっと全部与え続けられて、もう与えられることに飽きてしまうので、皆もう勉強する気がなくなっちゃうんじゃないかなと思うんですね。こうやって選べるようにしていくといいんじゃないかなというふうに思いました。それでは、これをやっている実際の子どもたちにインタビューをしていますのでお聞きください。

(動画視聴)

ということで、子どもたちが自分で選べるから楽しいというふうに言っていて、やっぱり自由進度学習というのは今の個別最適な学び、協働的な学びということに繋がっていますし、子どものペースで学べるというのはすごく大きなことになるんじゃないかと思います。ただ、この雑多な感じに学校もそろそろ慣れていけないんじゃないかなというふうに思うところであります。

この他にも、今日の話とは違いますが、5 Round Systemというような英語のやり方で、実は横浜の中川西中学校という、1学年9～10クラスある全校生徒1070人の学校で校長をやっている時に、5 Round Systemというものを入れたところ、英検の取得率が全国1位になったんですよ。1年生の1月には55%の子どもが3級を合格しまして、最終的には98%ということで、本当に普通の公立校なんですけれども、すごく効果がありました。これは5回教科書をまわすんですね。この映像は昭和北中学校というところで、1年生の終わりにリテリングという形でやるんですけど、これもお聞きください。

(動画視聴)

この5 Round Systemをやっていると、話すことや聞くことがものすごくできるようになるんですね。もしこの後にご質問があれば、もう少し詳しいお話をさせていただきますけれども、最後にこうやってリテリングもやって、この子だけではなくて皆ができて、そして他の子が「Wonderful!」など、茶々を入れるのが特徴の1つで、やっぱり日本の英語の授業というのは静まり返っていて、そうなりがちだなというふうに思ったので、5 Round Systemを入れたところ、英検のためにやったわけではないんですけど、横浜でも広島でも効果が出たということがございます。

さて今日はこれ以外にも不登校のお話をさせていただきますけれども、広島県もSSR、これは校内のフリースクールと、それから品川区で言いますとマイスクールにあたりますが、教育支援センターでSCHOOL “S” というものをやっておりました。

これがSCHOOL “S” のロゴになります。このロゴで何を表したかったかということ、どうしても不登校の子どもは家の中に入って、外に出たくなくなるんですけど、1歩出ればこんな楽しいことが待っているよと。SCHOOL “S” というのはそういう場所だよ、おいで。ということを表しています。

これは学びの多様化学校ではなくて、実は広島県教育委員会の指導主事15人に対して事務を一切やらせずに、とにかく学校で不登校の対策を思い切ってやりなさいと、色々トライしながらやりなさいというふうに言ったところ、みんな伸び伸びと思いついて、お揃いのTシャツなども作って進めたんですけど、実はこのSCHOOL “S” は30万円しかかけていないんですよ。というのは、スタッフ達がこのSCHOOL “S” を作りたいと言ったのが11月なんです。行政として、もう予算の編成は終わっています。教育長どうしましょうと。来年まで待

つか、再来年まで待つかどうかどうしようという中で、子どもの1年は戻ってこないんだから今すぐやろうということで、この写真の真ん中にいるのは私でございますけれども、皆で教育センターの掃除をしまして、高圧洗浄をかけて、ペンキを塗って作ったのがSCHOOL “S” です。写真の真ん中がビフォーで、両側がアフターです。やればこれぐらい可愛くできるんですよ。その結果、このSCHOOL “S” が250人ぐらい、全県から自分の学校に通いながら来たんですけれども、これをもとに、市町のいわゆる教育センター、教育支援センターもこういうふうが増えてくださいよというようなショールームとして進めていったというようなことがあります。どんな取り組みだったかということについてNHKから取材されていますのでご覧ください。

(動画視聴)

時間も迫っていますのでこのあたりで動画は終わらせていただきたいと思っておりますけれども、そのほかに商業高校のアップデートもやりました。ここもやっぱりWho am I?、生きるって何?というようなことを主軸に、探究の授業を週4時間やってまいりました。小さい子も高校生もやっぱり自分のこと、生きるって何?ということをおんなのようなライフウェーブチャートを書いて、考えて、そして世の中で何が起きているのか、知らなかったと。なんで教えてくれなかったのか。いやいやその不満こそ勉強のタネだよ、というようなことを共有することがすごく重要なことというふうに思っております。

そして、こういう授業を行う上で一番必要になるのが研修です。インテルという会社のインテルティーチプログラムというのを広島県流に変えてもらって、3日間の研修を行いました。

1日目はこれからの学びの在り方、資質・能力を育成するデザインということで、2日目・3日目と実際の指導案まで落とし込んで、明日から授業で使えるということをやってきました。このブルームの分類学というものが教育学で、記憶・理解・応用・分析・評価・創造ということで、この創造というのが人間とは何か?、生きるって何?という質問ですけど、こればかりやっても、霞を食っていても生きていけなくて、記憶の問い。これは教科書で出ているような、雲はなぜできるんだろうというつまらない問いなんですけれども、この間をやっぱり毎時毎時、あるいは、各単元で各教科で先生たちが質問力を高めるといことが非常に重要と思っております。それができるように広島県では、全教職員にこれを受けさせるということで、ティーチャーからファシリテーターになるための研修を行っていました。ただ、この研修をやったからといって、たちまちできるわけではなく、ここは管理職と一緒に毎回毎回、PDCAサイクルをまわしていくことをやっておりました。

そしてコミュニティスクールや学校図書館の改革なども実施しましたが、もう1つ、こういう改革をやる時に大事なものは、カルチャーや組織風土だと思います。特に、私の場合は教育委員会の事務を2割削減しました。

これは、別に稟議を上げなくていいからというものを実際私も目で見て、これやめなさい、あれやめなさいということを行った結果、SCHOOL “S” に置けるようなスタッフが15人、生み出されたわけなんですけれども、主体的・対話的で深い学びを学校にやれということであれば、やっぱり教育委員会こそが、主体的・対話的な深い学びをしていかなきゃいけないというふうに私は思っておりました。

そして毎年、組織体制を変えておりました。

広島県の場合、義務教育指導課、個別最適な学び担当、高校教育指導課、豊かな心と身体育成課、それから特別支援教育課とこういうふうにはありましたが、どう考えても、豊かな心と身体育成課の中で不登校支援がうまくいかないんですよ。なんでかなと思ってじっと見ていたら、自殺やいじめや警察対応をしながら、ふわっとした不登校の対応はできないんですよ。攻めと守りをはっきりさせた方がよくて、二刀流は大谷選手ぐらいしかできないんですよ。そこをやっぱり組織を作る者というのははっきりと、やっぱり決めるのは上の人しかできませんので、これはそういうふうにしたほうがいいかなと思います。そして、この特別支援学級というのも難しく、どこもうまくいっていないんですよ。なんでうまくいかないんだろうと思ったら、特別支援教育課は、重複障害児や医療的ケア児等の重いことをメインにやっているんで、なかなか特別支援学級のことがうまくいかない。それならば、義務教育指導課の中に新しく作って、ピカピカの特別支援学級を作りなさいと言って、1週間に1回必ず特別支援学級の先生として入らせました。時々行って、ちらっと見てもダメなんです。毎週毎週、先生として行かせて、上履きもそこに置いて、職員室にも机を

置かせて、先生として行きなさいと。そうすると、保護者対応もできるし、何かやれやれとばかり言っているような指導主事ではなくなるわけですね。そういうふうにやっております。学校としては、初めは県教委が毎週毎週来るなんて、「見張りに来るんですか、嫌です」などと言われましたけど、そのうち、人手不足というのもあって、優秀な指導主事が来てくれるんだっただらということでありがたがられました。週1回じゃなくて2回来てもらえませんかと言われた学校もあります。このようにして、皆で現場主義で進めていきました。フレキシブルに組織体制も毎年変えて、15名の指導主事がSCHOOL“S”に行けるようにしました。

ここで教育委員会の執務室の中もご覧ください。

(動画を視聴しながら説明)

座って仕事をしている人が少ないというふうに思ってください。立って打ち合わせなどを行っているという働き方です。打ち合わせの椅子もなくなりました。立って打ち合わせしなさいというふうになりました。

また、とにかく県外に色々なものを見に行きなさいということで、大きな金額ではありませんが、交通費を渡して、色々なものを見に行かせました。そして、2週間に1回、指導主事全員が集まって、見に行ったものを発表させるんですね。これを広島県に導入するとしたらどうやるんだということを徹底的に話し合わせる。単に行って、物見遊山的に行くんじゃないわよと、何か持って帰って来なさいよというようなことでやっております。

それから多様な環境ということで、女性の校長比率を増やしたり、内申書も色々変えたりしました。これらについては時間の関係で割愛したいと思いますが、内申書のことについて簡単に言いますと、これがビフォーでアフターなんですけれども、欠席欄を取ったということと、所見欄の廃止、自己表現を実施するというふうになりました。実は広島県がやっただから、19都道府県が欠席欄の廃止を表明し始めていますので、3分の1がもうなくなっていっているので良い兆候だなというふうに思っています。

もう1つ変えようと思ったのはここなんですよね。資料を大きくしますけど、個人と組織と社会の関係で、自己認識、私は何者か？どんな人なのか？どんな人生を送りたいのか？というのがあって、そのあと自己開示があって、15歳の春に身につけさせたいのが自己表現だということになります。15歳の春に、自己表現について5分間あげるから、パソコンを使っていいわよ、自己表現してみなさいというふうに言われて実行できた子どもは、就職活動の時にもものすごく良い自己表現をするのではないかなというふうに思っています。そして評定の5段階のうち、その場に行けば3がもらえ、普通にやれば4、ものすごく良ければ5ということで、これはあんまり差がつかないようにしました。最終的な内申書には自己表現も入れて、学力検査と調査書と自己表現を6対2対2の比重にしました。

その結果、高校1年生を対象に「自分なりに自己表現ができたと思いますか？」というアンケートで95%が肯定的な回答でした。というのはやはり、先生が評価するのが嫌なんですよ、子どもは。この所見欄に何を書かれているかわからない。開示請求もありますからそんな色々書けないんですけども、この先生に何かごまをすらないと良いことを書いてもらえないんじゃないかというふうな都市伝説があることが問題でして、それをこの自己表現を導入することによって変えていったというようなことがございます。

そして広島県では八策というものがあります。坂本龍馬も船中八策というものを作っていましたけれども、毎年少しずつこれを変えて、そして皆で唱えながら、仕事をしておりました。例えば、「生きるって何？」を主軸とした探究学習をすべての学校に汎用させ、キャリア教育と結びつけて実践していく。学校や教育委員会は「我が子・我がことであれば」を旨に、「子ども基点」を貫く。現場は「教室」である、教室に行って教員とともに子どもの様子を観ながらカリキュラムを創る。指導主事は、教職員の心に火をつけ、伴走し、はしごを絶対に外さない。ということなど、こういったことを皆で唱えながら、皆で注意しながらやっております。

そのような形で少し駆け足になってしまいましたけれども、お話をさせていただきました。ご清聴どうもありがとうございました。

区長室長 平川様、どうもありがとうございました。それではここから質疑および意見交換のほうに入っていきたいと思っております。ご質問のある方は挙手をお願いいたします。

区長 盛りだくさんなお話でお伺いしたいことはたくさんあるんですけども、まずそもそも、人間とは何か？生きるって何？という、未来に向けて、社会がどう変わったとしても生き抜けるような力を身につけさせるということが主軸なのかなと思った時に、それこそおつ

	<p>しゃっていましたけど、教職員の方々もそうですし、教育委員会もそうですし、教えるという概念がもうないだろうなというのは、やってこられたことで思いました。</p> <p>自分達がまさにそういう問いかけをやっていないと、子どもたちに対して、伴走できないと言いますか、コーチングもできないというところは思うんですけど、研修を少しやっただけでは絶対に身につかないので、日常的にそのような対話などをやっていかなきゃいけないと感じました。おそらく、そのようなことに慣れていない人の方が多いというふうに思うんですね。そういう風土をどのように形成していったのかということが1つと、あとは今、教職員の方が新しいことなどで色々これをやらなきゃいけない、あれもやらなきゃいけないということが多くて、働き方改革という側面からもなかなか新しいことを調整する時間がなかったり、余裕がなかったりということ、あとはそれこそ、保護者の対応も含めて様々やらなきゃいけないことが多い中で、そういうスキルや次世代の新しい学びというところについて自分をアップデートしていく、そういう時間をどうやって作っていったのかなというのを教えていただければと思います。</p>
講師	<p>難しいですね。人間とは何か、自分の人生をどうしたいかというのは、大人でもわからない。自分とは何者かという質問は本当に難しい質問なんですけど、常に考えていないといけないと思うんです。</p> <p>私はどこに行っても、さっきのライフウェーブチャートを皆で書いて、例えばこの金蘭会学園の改革をやる時に、改革の主軸になる人全員に書いてもらって、時間をたっぷり、半日ぐらい取って、一人ひとりの人生の中で、なんでここはこんなに下がったんですか、なんでここは上がったんですかということを一人生ひとりやりました。初めはチーム作りなんです。組織だから仲良くする必要はありません。だけど、チームワークがやっぱり大事なので、この人がこんなことを言うのはこういう経歴があるからだなとか、こんな辛い思いをしたからなんだなという理解ができるんですね。だから、職員室でも色んなワークがありますけど、強み、それから2～3年で目指したいこと、自分の弱いところ、もし1億円があったら、もし時間がたくさんあったらやりたいことなど、そういう質問をしたりして、皆でそれをシェアして、チーム作りとして、どんな人がいるのかというようなことも含めて改めてやったこともあります。</p> <p>例えば、金蘭会学園のこの夏の研修も4日間やったんですけども、1日目は私の履歴書という日経新聞の一番後ろに私の履歴書ってございますよね。あれを一人ひとりの先生に書いてもらったんですよ。それをシェアして、班の中で話し合っ、この人のものが一番良いというのを皆の前で発表する。そうすると、私立ですから36年間一緒にいたけどこの人はこういう人だと思わなかったということが出てきて、結構涙、涙で、相手の人生のことを聞いたりするんですね。2日目はコーチングです。3日目は授業で、1人30分ずつ全員授業をやってもらいます。そして4日目、何をやったと思いますか。学力テストですよ。学力テストをやって、自分の教科については大学入試の実力ぐらいは学力をつけてもらわなきゃいけないので、初めはちょっと反対が出るかなと思いましたけど、実施すると4月から私が言っていたので、実施できました。皆、そこそこ点数を取ってくれたので良かったと思いましたけれども、やっぱり初めにこのライフウェーブチャートを作って、子どもも大人も自分の人生をこれからこうしたいんです、ああしたいんです、これはわかりませんって正直にお互い語り合うってことなんです。幹部は5人いましたけど、毎年4月に5人ともやりました。幹部がやっていくと下もやっていくという雰囲気になってくる。それからここで何を言っても怒られないというふうになってくる。</p> <p>だからSCHOOL“S”を作りたいって言ったのは指導主事たちだったんです。初め、SSRという各学校に校内フリースクールを作って、1人1台のパソコンが配られましたから、このパソコンを使って、オンライン部活というのを始めたんですよ。そうするとヘビ部とか、色んな部活がいっぱいできたんですけども、子どもたちはそれですごく喜んで、けどこの子たちが集まりたいというところ、集まる場を作りたいから、だからSCHOOL“S”を作りたいんです、というふうに本当に自然発生的にできたんですね。そして、皆でお掃除して作りましたから、その場所をものすごく大事にするし、愛が入っているんですよ、そこに魂が入っているんですよ。だから教育というのは、もうこんなのは釈迦に説法かもしれませんが、場所だけ作ってもダメで、そこにやりたいっていう人と皆でやろうっていう場を共有するような共感力のあるものを作っていかないと絶対に成功しないんです。その雰囲気作りを指導主事たちと一緒にやったというふうなところだと思いますし、もうすでにそれをやっていらっしゃると思うんですけど、それが組織、風土形成のポイントじゃ</p>

	<p>ないかなと思います。それぞれの人生をそれぞれが知ろうとして、理解して、そしてリスペクトするところが、急がば回れじゃないんですけど、大事なのかなと。</p> <p>それをやるために時間が要りますよねということなんです。もちろん要ります。だから劣後の優先順位を上が決めてあげるといことしかできないんです。一人ひとりのパソコンを見て、「これは何をやっているの?」「これ要らないよね?」とか、あるいは、毎日毎日フロアに行って、指導主事の横に座って、「あれできた?」って言ってやっていました。「いやいや、ちょっと待ってください。今やっていますから」って。「あのさあ、持ってきた時に完璧なものを持ってくるじゃん。それで駄目出しされたら嫌じゃん。今見せなよ」って言って、途中のものを見せてもらいながら、「これいいね、いけてる、いけてる」というふうにしました。そうすると、時間も短縮できますし、スッと通るんですよ。あと、私が教育長になった時、これは行政あるあるなんですけど、課長以上の人しかレクできないというふうになっていたんですよ。それはもうやめました。あと、レクの原稿を作っていたんですよ、広島県は。初めに私がレクを受けた時に何かを読んでいたの「それなに?」って言ったら、「原稿です。課長にまで見てもらいましたけど、何か変なことを言いましたでしょうか」って。「いや別に変じゃないけど、普通にやってくれたらいいのに、原稿なんかいらないわよ」って。もうこれから原稿要らないからって言って、どんどんどんどん質問しながらやっていく。初めは宇宙人が来たみたいない感じでびっくりされましたけれども、だけどそれぐらいやったら、やっぱり仕事も早まるし、皆早く帰れるようになるし、やらない劣後の優先順位として2割減らすよというふうに言ってやりました。あと、5時15分に家に帰って、8時ぐらいに抜き打ちで見に行ったことがあります。写真を撮って翌日に「すみません、幹部の皆さん、昨日これだけ残っていたんですけどどうということでしょうか」って言いました。もうそれぐらい激烈にやらないと、やっぱり組織風土ってなかなか変わんないということなのかなあというふうに思いました。すみません、ちょっと答えになってないかもしれませんが。</p>
吉村委員	<p>他にも質問されたい方がいらっしゃると思うので、2つだけ端的にお伺いいたします。</p> <p>イエナプラン教育のお話で、子どもの選択ということが子どもの主体性を生むということだと思えるんですけど、実は私も教員でしたので、今も自由進度学習などを行っている学校を見に行くことがあるんですけど、平川先生は県教委にいらっしゃって、先ほどの福山の小学校は福山市立ですよ。県教委と市教委がどういう話をしていって、ああいう学校を作っていこうということになったのかというのが質問の1点目です。</p> <p>もう1つは、今日本が目指している教育だと思うんですけど、保護者や地域の方にはなかなか理解されにくい部分があると思います。そのへんの啓発ということについては、どのようなアイディアで、どのようなことをされたのか、お伺いしたいと思います。</p>
講師	<p>まず県教委と23市町との関係ですけども、非常に難しかったですが、喧嘩している場合じゃないので、私から拒否ぎみの人のところにも行きました。膝を突き合わせて、大人同士が喧嘩してもしょうがないんだから、「教育長、一緒にやりましょう」と。一番難しかったのは広島市です。政令指定都市ですから、県がまた来たって言われるんですけど、こっちから出向く。毎学期、広島市の教育長のところに行って、色んな話をしました。</p> <p>その中で、イエナプランというのは横浜の時からやりたいと決めていたので、就任後の5月に教育長会でこういうものがありますってビデオを見せました。10月か11月頃にオランダに見に行こうと思いますけど、見に行きたい人は手を挙げてくださいと言ったら、23市町中、3人上がったんですよ。そこで私が言ったのは、報復人事とか絶対にありませんから、本当に行きたい人だけ来てくださいと。そうすると、福山市の教育長さんだけが見に来てくれて、福山市の教育長と福山市の指導主事、私と県の係長と指導主事2人の計6人で、車がこれ以上乗らないので、秘書は来ないで、私が通訳やるからなんて言って、オランダ語はできませんけど英語は一応できるので、ツアコンなく行って、これをやるためにどうしたらいいんだって喧々諤々、話をしました。県は小学校を持っていませんから、やっぱり県と市と一緒にタッグを組んでやらないとこういうことはできないんです。でも喧嘩する場合じゃないので、こっちから出向いて、嫌だって言われても、もう膝を突き合わせて話していく、そのような形でやっていきました。</p> <p>それから、目指していることの共有や啓発ですけども、読書会や映画の鑑賞会などをよくやりました。例えばMost Likely to Succeedというハイテックハイの映画を皆で見て、先生とか誰でもいいですよって言って、教育長と話し合うという会議もやりました。あと、教育哲学者の苫野一徳先生に何回も来てもらって読書会をやったりしました。こういうこ</p>

	とをやることによって、啓蒙していくんですよね。それを必ず、マスコミの方に報道してもらおう。これからはこういう姿なんですということをビジュアルで共有することが重要なと思いました。
濱松委員	2つ、教えてください。 1つは大変失礼なんですけど、平川さんが辞められた後、その後も改革は続いているのか。そのことを6年間教育長でいらっしゃった時からすでに考えておられたのか。これも言うまでもなく、やはりなかなか改革というのは続かない。1代、2代、3代と続けばいいんですけども、そのあたりをお聞かせください。 もう1点が、この教育改革をなされたのは色んな関係者のお力もあると思いますが、やはり平川さんの存在が大きいのと思っています。民間経験や起業、横浜市立の中学校での校長経験、親としての経験、そもそもお持ちの資質、その他もあると思いますが、これらがどのぐらいのパーセンテージで関係していると思いますか。なぜかという、民間教育長や民間校長は、ある種失敗となったりして、なかなか広がりがありません。そのあたり、どういう経験をしていけばいいのかというのをお聞かせいただきたいなと思いました。
講師	私が辞めた後、どの程度残っているか、私も辞めたのでわかりませんが、そのあと広島に行っている方が「平川さん、大丈夫だよ」と言ってくれたのを聞くと、3歩進んで2歩下がったとしても、やった意味はあったかなと思いますし、3歩進んで下がるのは1.5歩とか1歩ぐらいにするためには、先ほどのカリキュラムとカルチャーとシステムと言いましたけど、システムで杭打ちするというのがすごい重要で、それが入試だったかと思います。そういう意味ではDNAは残っているんじゃないかというふうに思いますし、現場に行って、指導主事が現場で続けてくれているのを見ると、これほど嬉しいことはありません。 それから私の民間人校長などの経験ですけども、これは別にどんな経験をしていても、これをやったからこうだということってないと思うんですね。また、私だからできたということもないと思います。私もこんな性格なので、いっぱい失敗もしていますし、嫌がられる人もたくさんいますし、だけど、絶対やるんだっていう、この一念でやっているのみでした。本当に成功したかどうかはわかりません。だけど、目の前の子どもたちのためにやるという、これだけです。仕事は誰のために何をということで言うと、私は子どもたちのために1ミリでも1歩でも教育を良くするという、それしか思っていまらなかったもので、何かごちゃごちゃ他の方から言われても、一切気にしないというふうに思いながらやっていたので、そこかなというふうに思います。ですから、前に何をやったとか、この人がどういう出身だとか、それは一切関係ないんじゃないかと思います。
吉原委員	先ほど不登校への対応、特別支援学級の運営について、攻めと守りのどちらもあるけれども、どちらかに徹しないといけないというお話でしたが、そのへんをもう少し詳しく教えていただけないでしょうか。
講師	これは組織論の問題で、これどうまくやっているところもあるとは思いますが、必ずそうだったということも言えないと思います。広島県の場合、豊かな心と身体育成課というところが不登校、あるいは生徒に関わること、学校給食、コロナの対応などもここでやってきました。ただ、じーっと見ておきますと、自殺やいじめや警察対応は、もう即動かなきゃいけない。どちらかという、守りの仕事だと思うんです。起こってしまったことについて、どういうふうにしたら最小限のリスクにできるかというようなことだと思うんです。あるいは、起こってしまったことが重過ぎて、即動かなきゃいけない。そういうことをやりながら、不登校の対応というのは比較的ふわっとしてしまっていて、学校現場からすると、少し卑近な例ですけども、目の前の喧嘩を止めるのか、学校に来ていない子をどうにかするのかという、目の前の起こっていること、喧嘩を止める方がやっぱり先生たちもすぐやんなきゃって思いますよね。緊急度でいうと、自殺やいじめや警察対応の方がすぐやんなきゃいけない。不登校について、別にやっていないということはありませんが、なんとなくほわっとしているの、マネージメント的に緊急度の高い方にまず取り掛かってしまう。 それと同じで、特別支援教育課についても、特別支援学校は県の事業なので特別支援学校や特別支援学級など色々やっていますが、特別支援学級というのは、特別支援学校よりも障害の程度も低いですし、重複の子もあまりいないわけですね。そういう点で、なかなか目が向けられないんじゃないかというふうに組織論的に思いましたので、特別支援教育課の特別支援学級の部分は義務教育指導課に含めました。市町の小中学校にありますから、義務教育指導課がやった方がいいと思い、変えました。それから、豊かな心と身体育成課も不登校支援のことをやっていて、もちろん頑張っていたんですけども、これは個別最適な

	<p>学び担当課の方に移して、もう自由にやりなさいというふうに言って、実はうまくいったという事例です。</p> <p>ただ、組織論の問題なので、これが正解ではありません。でも私が思ったのは、人は守りながら攻められない、攻めながら守れないんですね。二刀流は大谷翔平選手ぐらいしかできなくて、本来であれば、あなたは守りの仕事ですよ、あなたは攻めの仕事ですよと言ってあげた方が、トップが集中できるのでいいんじゃないかということです。</p>
区長	<p>時間がもう少しあるので1点だけすみません。</p> <p>選び取る学習や、あるいはSCHOOL“S”によって、学校に行っていなかった子どもが行くようになったということで、「学校は嫌だけどその場はいい」というふうになって、結果としてそこが学校になれば、結局みんな行くんだよね、という話だと思います。それが子どもたちが生き生きとする場の一つだと思うんですが、今の教育の大きな課題として、全ての学校でそういう場に至らず、また、全国的にそういう方向に行かない理由というのは何だというふうにお考えでしょうか。</p>
講師	<p>2つありまして、大きい問題と比較的小さい問題というふうに思っています。</p> <p>小さい問題としては、チョイスがない。私たち日本人は、食べるものや着るものはすごく自由があるのに、なんで教育というものはこんなに自由がないんだろうとずっと思っています。AがダメならB、BがダメならCというようにチョイスがあった方が、それは教育の手法、例えばオランダでは、1つの町にいくつかの従来どおりのコンサバティブな学校と、それからイエナプランやドルトンを採用するような学校があって、どの学校に行ってもいいですよというチョイスがあるんですよ。それが日本にはなかなかない。嫌なら私立に行きなさいよという話もありますけど、私立に行ってもそんなに大きく変わらなくて、そういうような問題があるのではないかと思います。</p> <p>そして大きい問題としては、「まあいっか」というのがないんです。余裕がない状態になっていて、子どもたちを苦しめていると思います。「まあいっか」と言いますか、遊びの部分、バッファの部分ですね。これは大人もそうかもしれません。「まあいっか」がなく、汲々になってしまっているところが今のこの教育問題や、あるいは会社で起こる問題も同じだと思います。その空気感が問題としてあるのではないかなと思っています。</p>
区長	<p>ありがとうございます。もっと議論をしていきたい気持ちは山々なんですが、時間も迫ってきてしまいました。</p> <p>本当にすごく刺激を受けました。改めて、色々考えていきたいなというふうに思いました。品川区も子どもたちのための新しい取り組みや、先ほどおっしゃったような事務を削減するところはすごく大事だと思いましたが、これは教育現場に関わらずですが、やっぱり会話や相手のことを知った上でということ。企業と違って、公務員の職場はチームビルディングが生まれるタイミングがあまりないというのは感じているところなので、実はそういうことが仕事をやっていく上で大事なんだと改めて思いました。</p> <p>本当にありがとうございます。また色々と教えていただく機会があればというふうに思います。</p>
区長室長	<p>平川様、本当にありがとうございました。これで講演は終了とさせていただきます。</p> <p>次第のその他のところですけども、全体を通して何かございますでしょうか。</p> <p>よろしければ、それでは最後に区長からご挨拶をお願いいたします。</p>
区長	<p>先ほどのお話の冒頭に伺ったCOMPUTER SCIENCEやCOMPUTER ENGINEERINGは就職が難しく、逆にZOOLOGYが就職できるというお話は初めて知りました。アメリカでエッセンシャルワーカーの方が稼げるようになっていくという記事は見たことがあって、これからまた何を身につけていくのかというのは加速度的に変わっていくんだろうなと思います。そこに子どもたちが生き抜ける力をどうやってつけていくのか、常に私たちが対話をしながら、学びをアップデートしていかないといけないと感じました。本当にすごく勉強になるお話をありがとうございました。</p>
区長室長	<p>それでは以上をもちまして、令和7年度第3回品川区総合教育会議を終了いたします。</p>